■永田徳本　　医師。牛にまたがって諸国を巡り，安価で医療活動を行い，″甲斐徳本″″十六文先生″″医聖″とも称された。
ながたとくほん
・・・・・・1513＝　　三河大浜で生まれたという(甲斐国谷村など諸説ある)。

義興周防帰国1518＝ 5歳：
　　少年期に，陸奥国で仏門に入り，

・・・・・・1522＝ 9歳：

　　鹿島(出羽ともいう)で，僧残夢を師に修験道における神仙吐納(呼吸のこと)を学び，
天王寺合戦・1531＝18歳：
　　さらに，老齢の_月湖道人(明に留学して医書を著し帰国，田代三喜の師)，田代三喜，玉鼎らより李朱医学(当時の明からもたらされた漢方医学，当流医学とも)を修め，戦国大名武田信虎が統一して10余年の甲斐に移り住み，おそらく隠密として，国主武田信虎・信玄父子二代の侍医になった。学んできた後世家医方に飽き足らず，中国後漢の張仲景による独自の医説を主張，疾病の多くは風寒によって発病すると，汗，吐，下，和による治療，作用の激しい薬を用いて病気を攻撃することを旨とするなど，張仲景の「傷寒論」のなかの法則を日本で初めて行い，独自の処世訓により，医家の風俗矯正に熱心であった。結果として，甲斐には，もっとも長く滞留したことから，″甲斐徳本″と呼ばれる。

・・・・・・1540＝27歳：この年，諏訪の大名諏訪頼重が武田信虎の三女禰々を娶り婚姻関係を結んだことと関係して，
武田信玄登場1541＝28歳：信濃国諏訪の東堀村に移り住み，御子柴家に寄寓して，その娘と結婚。
　　その後は，_戦火を逃れて東海・関東諸国を巡り，貧しい人々に無料で薬を与えたり，安価で診療を行ったとされる。伝承に拠れば，首から薬袋を提げ，牛の背に横になって諸国を巡り，どんな治療を行っても報酬として16文(18文ともいう)以上の金額を受け取らなかったと伝わり，″十六文先生″とも称された。
鉄砲伝来・・1543＝30歳：
・・・・・・1544＝31歳：田代三喜が死去。

ザビエル来日1549＝36歳：

大友布教許可1552＝39歳：この年，信玄が甲府から諏訪領内の金山に通じる棒道を作ることを命じているが，諏訪に移り住んだのもその関係であった可能性がある。牛にまたがって回り，安い金しかとらなかったというのも，隠密であることを知られないようにするためであり，その金山の周りでは，過酷な労働に対応すべく，大麻が栽培されていたと考えられ，徳本も治療に大麻を利用していた可能性がある。

・・・・・・1558＝45歳：

岐阜楽市楽座1567＝54歳：
織田信長入京1568＝55歳：
　　当然のごとく，本草学にも通じていて，症状に応じてどんな薬草を煎じればよいかをいろは順に歌にし解説した「いろは救民妙薬の歌」を創ったと言われ，諏訪では，かりんの木を植えた人として名が残る。

安土城築城・1576＝63歳：
本能寺の変・1582＝69歳：_甲州征伐により武田家が滅亡すると，甲斐に帰り，甲府の横近習町に住み，後に上一条町に移る。
豊臣秀吉関白1585＝72歳：
秀吉全国統一1590＝77歳：
ﾙｿﾝ島通交・ 1594＝81歳：曲直瀬道三が死去。
　　一時，友人の林信時の子である，若き日の林羅山を弟子としていたが，羅山の非凡な才能を視て他の職に進むように勧めたと言われる。
関ヶ原の戦・1600＝87歳：
糸割符法始・1604＝91歳：大朱子学者藤原惺窩の弟子になった林羅山は，
徳川家康隠居1605＝92歳：藤原惺窩の推薦で，徳川家康のブレーンになる。
家康駿府退隠1607＝94歳：
大坂夏の陣・1615＝102歳：この頃，_甲斐における葡萄の接ぎ木，挿し木や棚架け法などの栽培法も発明して村民に教え，今日の甲州葡萄の隆盛につながったと言われる。
寛永寺創建・1625＝112歳：_将軍徳川秀忠が大病に罹り，多くの名医がさまざまな薬を勧めるも効果がなかったところ，推薦されて，秀忠の前に呼ばれ薬を処方，秀忠は見違えるように全快，その際も″一服十六文″の計算で薬代を受け取り立ち去り，その名が轟いたと言われるなど，その人生は謎と伝説に包まれている。晩年は辰野(現在の岡谷市)に居住，″仙人″と呼ばれ，
寛永禁書令・1630＝117歳：_没した。記録が正確ならば，当時としては驚異的な長寿である。
　　岡谷市に墓碑が存在する。「梅花無尽蔵」「徳本翁十九方」「医之弁」「知足斎医鈔」などの著書を遺した。号は知足斎，乾室など。三河出生説に拠れば，源義朝を討ちとった長田親政の子孫である長田広正の子で，長田重元の弟といわれ，秀忠重病時の秀忠側近であった永井直勝(重元の息子。改姓)の叔父にあたる。田代三喜，曲直瀬道三とともに，日本医学中興の祖として″医聖″と呼ばれる。現代の日本の製薬会社″トクホン″は徳本にちなんで命名されたものであるが，直接の所縁はない。

Wikipedia「永田徳本」，碧南市ホームページ，河上陽江「牛にまたがった治療家 永田徳本」，